

I 学校の概要

学校名	真室川町立及位中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	0	3	11
生徒数	20	19	30	0	69	

II 研究の概要

1. 研究主題

「ひとり一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実」

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

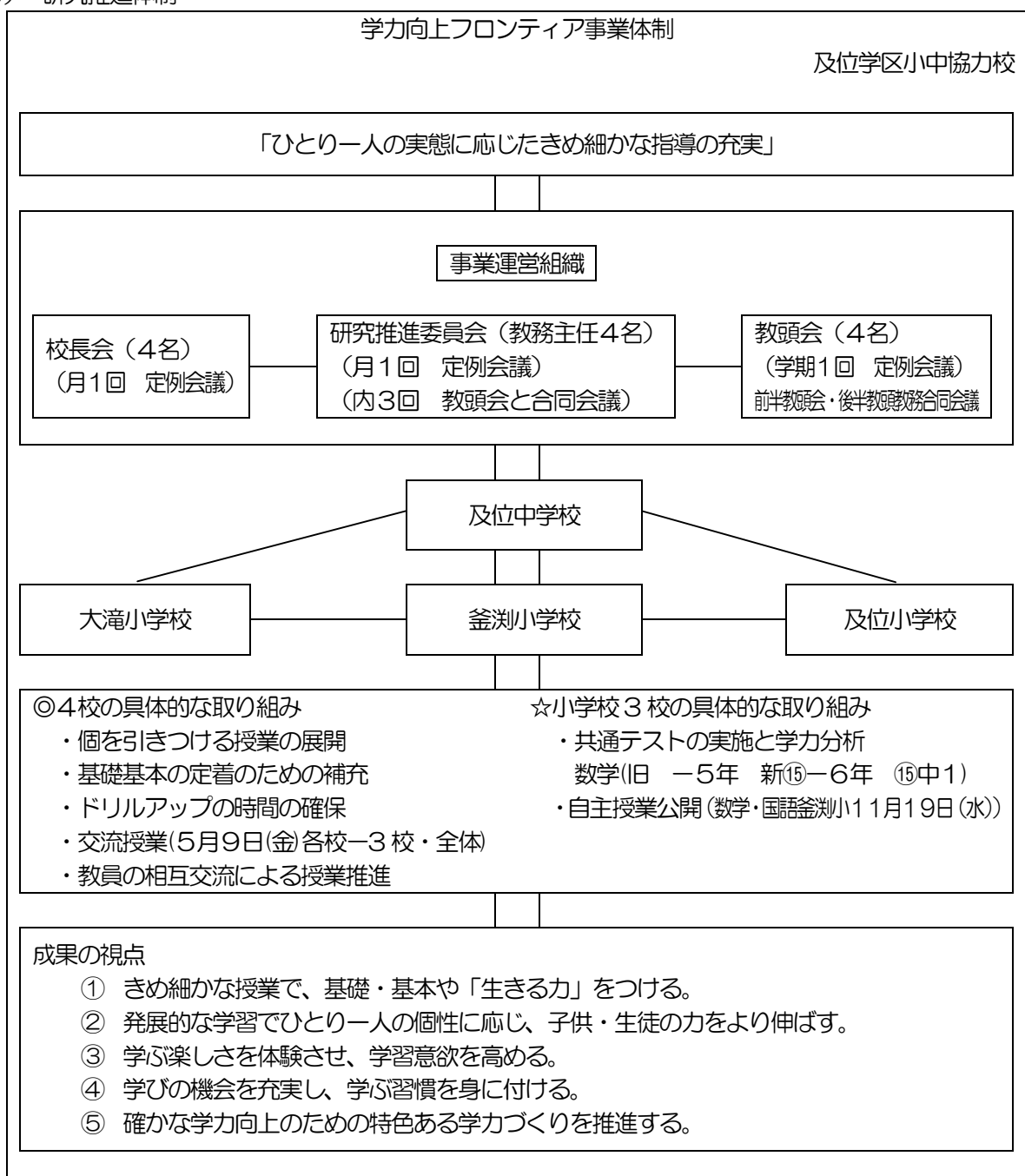
全学年の国語・社会・数学・理科・英語で実施
幅広い取組から生徒の学力を育成していくために上記学年・教科で実施する。

(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>○テーマ「運営組織の立ち上げと学校の実態の分析、それによる指導の強化」</p> <p>○仮説 何かをやろうとする場合は、その運営組織が明確であり、それぞれの役割が理解されていなければならない。また、学校の実態がよく把握される必要がある。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>① 運営組織作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本中学校区を中心とした、小学校3校との連携組織作り。 ・本中学校区長の校長会、教頭会、教務主任会を活用しての連携のとれた運営。 <p>② 少人数指導の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加配教員を最大限に利用して、時期を考え（2月頃から）数学、英語を到達度別にクラス編成し、基礎力と応用力の向上を図る。 <p>③ 選択教科における指導の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択教科の国語、数学、英語等での習熟度に配慮したクラス編成による基礎基本の徹底や応用力の向上等の個別指導の推進。 <p>④ 漢字検定、文章検定、歴史検定、数学検定、理科検定、英語検定の合格に向けた計画的学習を通しての学習リズム作り。</p>
平成 15 年度	<p>○テーマ「実態に応じたひとり一人につきささる指導の充実」</p> <p>○仮説 研究も2年目に入り、数値的な成果が示されなければならない。それゆえ、実態に応じたひとり一人につきささる指導の充実が必要である。</p> <p>○研究内容・方法</p> <p>① 運営委員会（教務主任会）を中心とした授業における指導力の向上。</p> <p>② 平成14年度の学力分析を基にした、個々の学力に対応した学習プリントの工夫や授業づくり。（平成14年度の成果と検証）</p> <p>③ 平成14年度の学力の分析を受けての、不得意分野の対策と小学校との連携。</p> <p>④ 基礎学力の定着と学習への意欲づけのため、個別指導の推進。</p> <p>⑤ 個々の学力の継続研究（追跡）と学びを開く。</p> <p>○校内授業研究会予定</p> <p>① 平成15年 5月 9日 及位中学校区合同授業研究会</p> <p>② 平成15年 7月15日 第2回校内授業研究会予定</p> <p>③ 平成15年11月13日 第3回校内授業研究会予定</p>

平成 16 年度	<p>○テーマ「学力向上フロンティア事業の具体的な成果をまとめる」</p> <p>○仮 説 研究も3年目に入り、数値的な成果が示されなければならない。それゆえ、最終年として具体的な成果がなくては、研究した意味がない。</p> <p>○研究内容・方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本校並びに協力校による2年間の成果を検証し、課題を明らかにし、更なる改善を目指す。 ② 2年間の成果を検証し、数学、英語などでの習熟度別の授業を展開していく。 ③ 平成15年度の実践を生徒側、指導者側、保護者等、多角的に評価し、課題を明らかにして、より有効で実態に即した具体的な方策を策定する。 ④ 1年次、2年次の成果をまとめ、本事業の普及に資するとともに、より有効な実践のための外部からの示唆を得る。 ⑤ 3ヶ年の学びを次年度以降につないでいく。
----------------	--

(3) 研究推進体制



Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

①数値での評価に関わる成果

- 平成16年1月に実施の対外実力テストでは、県平均との比較で、2・3学年は、4教科が+、1学年は、2教科が+、という結果である。全学年とも入学時より向上している。個人的に見ても上級学年になるほど、昨年、一昨年よりも成績が向上している生徒が多い。
- 各種検定試験では、漢字検定2級、英語検定準2級、数学検定3級等、上級に挑戦し合格している生徒がいる。また、そのような生徒の合格が他の生徒への良い刺激となり、学習意欲の向上にもつながっている。
- 各校内定期テスト及び実力テスト後に、学力分析と情報交換を行った。不得意分野の対策、個別指導の推進、教科と学年間の情報交換と連携を図りながら、随時授業改善とひとり一人の生徒に今必要な学力は何かを考え、対応することができた。学力向上に結びつく取り組みであった。

②意欲での評価に関わる成果

- 平成13年度（現3年生）から、朝学習、週2回の放課後学習会を実施・継続、平成14年度から少人数による習熟度に配慮したクラス編制の選択教科、平成15年度は、教科担当者が解説を行い担任も指導にあたるミニ授業のような朝学習を実施してきた。少人数であること、複数の教師が指導にあたることで、ひとり一人が1つの課題にじっくり取り組めるため、「わかる、わかった」という実感や感想を持っている生徒が増えている。また、1つの課題にじっくり取り組む中から出る疑問やわからないことに対して、質問したい生徒も以前より増えてきた。数値的な成果だけにとどまらず、意欲的・積極的な学習にもつながっている。
- 授業内容の理解で補充が必要な生徒には、その日に個別指導を行うことができた。

2. 今後の課題

及位中学校は、1クラス約20名のなので、以前よりも少人数指導の利点を活かすことができた。生徒も素直で真面目であり、授業中は集中して活動することができ、宿題や自学ノートの提出率も良い。このような環境の中で、指導する教師側は、生徒の良さや指導のしやすさに甘えることなく、常に研究を重ねていく必要がある。これから、今年以上に「わかる授業」、「できる授業」等のための授業改善や指導の工夫・研究を行い、学力向上に努めていかなければならない。

Ⅳ 学力等把握のための学校としての取り組み

- 4月に実施の学力テスト
- 校内定期テスト（中間テスト5教科、期末テスト9教科）の実施と分析
- 実力テスト（各学年 年4回）の実施と分析
- 各種検定試験での合格率による全国との比較
- 授業アンケートの実施（10月～11月にかけて5教科で3回分実施：全学年）と集約、分析

Ⅴ フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度中にHP開設を予定しており、それに向けて準備を進めていく。

◇次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | | |
|----------------------|---|--|--|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | | |
| 【学校規模】 | <input checked="" type="checkbox"/> 3学級以下 | | | | |
| 【指導体制】 | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T、Tによる指導 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | | |